

海鳴47号(2019. 05)

自然観察入門-Ⅱ

Introduction to Nature Observtion Ⅱ

岩崎行伸*

昨年(2018)は、九州・西日本(広島)・関西(大阪)・紀州(和歌山)と各地に本土来襲の台風・梅雨前線による集中豪雨の水害や土砂崩れ等被害と、北海道にあつては、これらに加えて大地震(震度7)による災害が起きた。加えて、この夏はこれまでにない記録的猛暑に見舞われて熱中症に苦慮した。

50年程前に小生の経験では七夕の夜に集中豪雨により旧住所(押切/清水)において、巴川の大氾濫があり、床上浸水に遭遇し、大変な想いの経験を記憶した。この日から再建まで10年の月日が経つ、水害のない小高い山地へ、山崩れが心配なるも新住所(馬走/清水)に新築し現在に至っている。

このような要因には、未だ解明と予測ができていないが、世界的気候変動による地球温暖化が関与しているようである。地球の気温は21世紀末までには2℃程上昇するという予測報告がある。これから二酸化炭素による地球的規模の温暖化が急速に進行し大問題である。

それに加えて、国土開発による自然破壊なども懸念されるようになり、

自然環境などに対する関心がますます高まりつつある。そのような状況において、「ビオトープ」という言葉は、環境保全などの取り組みが一般市民に受け入れられるようになってきた。

ここでいう、「ビオトープ」とは、生物が棲息できる空間のことである。実際には、カエル等が卵を産み、やがてオタマジャクシになることのできる池を「カエルのビオトープ」という。メダカが水草などに卵を産み、孵化して棲息できる小川や池は「メダカのビオトープ」、ゲンゴロウ・タニシなどが棲んでいる池や沼に棲む生きものたちの「ビオトープ」である。多彩な生きもの環境が維持されている自然は豊かである。少しでも、身近な自然に目をむけてた自然観察入門Ⅱであり、この課題に対して関心頂けば幸である。

I、参考資料

- 1) 地球温暖化と自然再生ボラティア活動(2009):海鳴16号(岩崎行伸)
- 2) 田んぼ・ビオトープのある里山景観づくり(2010):海鳴20号(岩崎行伸)
- 3) 海の生きものと地球温暖化(2011):海鳴23号(岩崎行伸)

II、添付写真

1) 富士山の四季景観

(上段:冬彩/富士山と清水港・折戸湾口/日本平)

(中段:春彩/富士山と桜の開花、夏彩:富士山と茶畑/日本平)

(下段:秋彩/初冠雪・富士山と清水港/馬走/清水)

(Photo by Y. Iwasaki)

*会員:自然観察塾(塾長)、水棲&環境研究

會員：自然觀察塾（塾長）、水棲&環境研究
